

皇太子殿下おことば



「第32回国民文化祭・なら2017」・「第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会」のオープニング「開会式」に、皆さんと共に出席できることをうれしく思います。

奈良県は、多くの文化財と美しく豊かな自然景観に恵まれた地であり、仏教を始め様々な文物が外国からもたらされ、日本古来の文化と交流・融合を果たし、今に続く日本文化の源が生み出されました。

この奈良の地において、全国各都道府県、さらには海外からも、様々な文化活動に取り組まれている方々を迎え、国民文化祭及び全国障害者芸術・文化祭が開催されることは、誠に喜ばしいことであります。関係者の皆さんが開催のために払われた努力に対し、心から敬意を表します。

特に今回は、これまで別々に開催されていた両祭典を、全国で初めて一体的に開催される

皇太子殿下

と伺っており、様々な文化・芸術活動に共に参加することを通じて、障害のある方とない方の交流が深まることを期待しています。

奈良県では、「日本文化の源流を探る」、「文化の今を楽しむ」、「文化芸術立国の礎を築く」、「障害のある人とない人の絆を強く」の4つのテーマの下、県内各地で広範な分野にわたる文化・芸術行事が開催され、奈良県が発祥といわれる能や相撲などの伝統文化、社寺と連携した行事など、多彩な取組が行われることになると伺っています。

このような取組を通じて、地域や世代を超えた幅広い交流の輪が広がり、人と人の絆が深まるとともに、地域の伝統芸能や文化を再認識しつつ、新たな文化を創造していく場として、「国民文化祭・なら2017」・「全国障害者芸術・文化祭なら大会」が大きな成功を収めることを願い、私の挨拶といたします。

主催者あいさつ



文部科学大臣
林 芳正

本日、皇太子同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、「第32回国民文化祭・なら2017」「第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会」が盛大に開催されますことを、大変喜ばしく思います。

国民文化祭は、国民の皆様が日頃から行っている文化活動を、全国的な規模で発表、共演、交流する日本最大の文化の祭典として、昭和61年から、開催地の文化的な特色を生かして、毎年開催して参りました。

今大会は、「やまとし うるはし、おもしろし」のキャッチコピーの下、本日から91日間、奈良県内39全ての市町村において展開されます。本年は、はじめて国民文化祭と全国障害者芸術・文化祭が一体的に開催されますので、様々な交流を通して新たな文化が創造され、

発信されていくことを期待しています。

さて、2020年には、東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されますが、このオリンピック・パラリンピックをスポーツだけでなく文化の祭典としても成功させたいと考えております。そのためにも、文化芸術資源を掘り起こし、その魅力を国内外に発信する文化プログラムの全国展開を通じ、文化による国づくりを推進してまいります。

結びに、本大会の開催に当たり格別の御尽力、御協力を頂いた奈良県、開催市町村、文化団体をはじめ、関係する多くの皆様に深く感謝申し上げますとともに、大会の成功を心から祈念いたしまして、挨拶といたします。

主催者あいさつ



厚生労働大臣

加藤 勝信

本日、皇太子同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、「第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会」が「第32回国民文化祭・なら2017」と同時開催されるに当たり、主催者の一人として、一言御挨拶申し上げます。

全国障害者芸術・文化祭は、障害のある方々を中心に芸術文化活動を通じて自己を表現し、生活を豊かにするとともに、国民の障害への理解を深め、その自立と社会参加の促進に寄与することを目的としています。今回の大会は、全国障害者芸術・文化祭の歴史上初めて、国民文化祭と一体的に開催されます。

同じ場所からともに新たな文化を発信する、まさに国内最大級の文化の祭典となったといえるでしょう。

障害のあるなしにかかわらず、すべての人がお互いを尊重しながら共生する社会の実現に向けて、今回の記念すべき大会を、長い歴史と文化を持つ、ここ奈良の地で盛大に開催できることを、大変嬉しく思っております。

今、この東大寺を彩っている様々な「幡(ばん)」も、全国の障害のある方々から届けられた作品と聞いております。障害のある方々が表現活動を行うことの

喜びが伝わってくるような想いがいたします。

大会期間中に、美術作品や舞台作品を発表される方だけでなく、アーティストのご家族やご友人、作品や発表を楽しみに来場される皆様など、全員が主役となって一緒に盛り上げていきましょう。

ここ奈良での全国障害者芸術・文化祭だけでなく、全国10カ所の地域においても、障害のある方々の芸術・文化イベントが企画されています。厚生労働省ではこれらを、本大会のサテライトイベントとして位置付け、障害のある方の芸術文化活動を全国的に盛り上げていくこととしています。また、このような取組は、芸術・文化を通じて2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた機運の醸成を図るという大きな使命も担っていると考えております。

結びに、開催に当たり格別の御尽力をいただきました奈良県、開催市町村、文化芸術団体をはじめ、関係する多くの方々に深く感謝申し上げますとともに、大会の成功を心から祈念いたしまして、私の挨拶いたします。

主催者あいさつ



第32回国民文化祭奈良県実行委員会会長
第17回全国障害者芸術・文化祭実行委員会会長
奈良県知事

荒井 正吾

本日ここに、皇太子同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、「第32回国民文化祭・なら2017」と「第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会」を、この東大寺大仏殿前におきまして、同時一体の大会として開催させていただくことは、我々奈良県民にとりまして大きな喜びでございます。また、誇りにするところでもございます。開催に際しまして、全国各地、各分野から、この奈良にお越しいただきました皆様に、県民を代表して、心から歓迎と御礼を申し上げる次第でございます。

先程のプロローグで登場いたしました南都大安寺の僧「普照」と興福寺の僧「栄叡」は、西暦732年8月17日に発議されました第9次遣唐使の一員として、唐に派遣された留学僧でございます。中国の高僧「鑑真」をこの日本へ招くべく、中国で活躍をいたしました。西暦752年、天平勝宝4年4月9日に、我々が立っております大仏殿前で行われた大仏開眼供養に、鑑真渡来は間に合いませんでした。代わりに開眼供養の主役になりましたのは、インド僧の「菩提僊那」でございます。

日本の文化の源流を辿ります時、やはり大陸から渡来する新しい文化と日本の固有の文化が融合し合い発達した最初の現場が、この奈良であるように思われます。今からちょうど1300年前、717年、養老元年2月1日には、第8次遣唐使の安全祈願が、このすぐ側にございます春日大社の神山である御蓋山の南のふもとで行われました。その時に参加いたしましたのは、阿倍仲麻呂、吉備真備、僧玄昉、井真成などのメンバーでございます。

今、この場から見えます月でございますが、阿倍仲麻呂が遠く長安の都で「天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山に

出でし月かも」と故郷を懐かしんで思い出した月と同じ月の1300年後の姿でございます。阿倍仲麻呂にこの場で見せてあげたかった次第でございます。

9月1日に開会し、11月30日まで91日間にわたって続きますこの2つの大会の共通テーマは、「日本文化の源流を探る」「文化の今を楽しむ」「文化芸術立国の礎を築く」「障害のある人とない人の絆を強く」の4つでございます。どのような楽しみ方をさせていただいても結構だと思いますが、奈良に御来県いただきました皆様には、「奈良に来たら、奈良の歴史と文化の力で、元気になった」と思っていたくような大会になれば幸せでございます。

鑑真渡来のきっかけになりました奈良時代の皇族長屋王の詩がございます。「山川はその場所を異にするが、皆同じ天を仰いでいる。山川異域、風月同天」、「我々は願いを仏子にたのみ、共に未来の絆を結びたい」と詩っております。

奈良で開催される、この文化祭をきっかけに、奈良に来られた方、障害のある人もない人も住まわれている場所は別でございますが、同じ天を仰いでいる我々でございますので、共々将来に大きな絆を結んでいただくことができれば幸いです。長屋王の詩に託して御祈念を申し上げたく存じます。

結びに、両大会の開催にあたりまして、格別の御支援を賜りました両大臣、またその他の関係者の皆様に感謝を申し上げます。また、大会に参加されます皆様方の一層の御発展・御健勝を御祈念申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。

歓迎の辞



奈良県議会議長

岩田 国夫

本日ここに、皇太子同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、「第32回国民文化祭・なら2017」「第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会」が、このように盛大に開催できますことは、私たち奈良県民にとりまして、誠に光栄であり、この上ない喜びでございます。

全国各地からお越しいただきました皆様を、県民一同、心から歓迎申し上げます。御参会の皆様には、日頃から様々な文化芸術活動の推進に多大なる御尽力を賜っておりますことに対し、厚く御礼申し上げます。

本県では、国民文化祭と全国障害者芸術・文化祭を全国で初めて一体開催し、「日本文化の源流を探る」「文化の今を楽しむ」「文化芸術立国の礎を築く」「障害のある人とない人の絆を強く」の4つをテーマに、県や市町村などが主催する100を超える多彩な事業が、県内39全ての市町村を舞台に繰り広げられます。

参加されます皆様方には、日頃の活動の成果を遺憾なく発揮していただきますとともに、歴史と文化の豊かな蓄積を誇る日本文化のはじまりの地である

奈良県を舞台に、障害のあるなしに関わらず、地域や世代を超えた多くの方々との出会いや交流を通して、新たな文化創造の契機となりますことを御期待申し上げます。

奈良県は、「法隆寺地域の仏教建造物」、「古都奈良の文化財」、「紀伊山地の霊場と参詣道」という3つの世界文化遺産を有するほか、多くの史跡、国宝などの文化財、歴史的・文化的な景観に恵まれた、我が国文化の揺籃の地であります。

御来県いただきました皆様には、歴史と文化が香り立つ奈良県の魅力を存分に堪能していただければ幸いです。

結びに、「第32回国民文化祭・なら2017」「第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会」の開催にあたり、多大なる御尽力を賜りました関係者の皆様には心から感謝を申し上げますとともに、両祭典の成功を心から祈念申し上げまして、私の歓迎の挨拶とさせていただきます。